

科目名	コミュニケーション特論			分野・必選別・単位数	基礎科目	必修	2単位
担当教員	◎教授 横山正巳						
課程	修士	配当年次	1年	配当学期	後期	授業方法	講義
授業の概要	コミュニケーションの最適なアウトカムを得るため、コミュニケーションの理論・実践方法・評価・分析方法を学び、病院前救急救護現場や医療関係者、行政関係者、職場内、メディア等とのコミュニケーション能力を開発する。						
授業の到達目標	<p>①病院前救急救護現場は、短時間の中で傷病者及び関係者や、医療機関における医療関係者など、救急現場を取り巻く関係者との病院前救急救護コミュニケーションのあり方について、具体的状況を想定しながら説明できる。</p> <p>②119番通報時の口頭指導や携帯電話での医療情報収集等、緊迫した傷病者等とのブラインドコミュニケーションのあり方を説明できる。</p> <p>③病院前救急救護活動でのチームメイトとのコミュニケーションのあり方を説明できる。</p> <p>④メディアとのコミュニケーションの重要性とその手法を説明できる。</p>						
授業計画	回数	担当者			行動目標		
	1	横山 正巳	教授	<コミュニケーション学の基礎> 他者との良好な信頼関係を築くため、話を聴く姿勢と、相手の意思や考え方を理解し認める気持ち(カウンセリングマインド)を持ち、行動科学に基づいた面接スキル(知識と技術)を理解し、コミュニケーションの基礎が説明できる。			
	2	横山 正巳	教授	<医療コミュニケーション> 医療コミュニケーションの特長について説明できる。			
	3	横山 正巳	教授	<医療コミュニケーションの評価と実証方法> 医療コミュニケーションの評価と実証方法を説明できる。			
	4	横山 正巳	教授	<病院前救急救護コミュニケーション> 病院前救急救護活動の特殊性を理解し、チームメイトとの意思疎通の重要性と他医療業種のコミュニケーションとの違いを理解し、病院前救急救護コミュニケーションの特長を説明できる。			
	5	横山 正巳	教授	<病院前救急救護コミュニケーションのあり方 ①> 傷病者・救護者間のコミュニケーションの一般的なあり方を説明できる。			
	6	横山 正巳	教授	<病院前救急救護コミュニケーションのあり方 ②> 病院前救急救護現場における高齢者、乳児、精神疾患(認知症、アルコール中毒)、暴力的行為、ホームレス等の傷病者及び関係者など取り扱い場面ごとにおけるコミュニケーションのあり方を説明できる。			
	7	横山 正巳	教授	<病院前救急救護コミュニケーションのあり方 ③> 病院前救急救護現場における高齢者、乳児、精神疾患(認知症、アルコール中毒)、暴力的行為、ホームレス等の傷病者及び関係者など取り扱い場面ごとにおけるコミュニケーションのあり方を説明できる。			
	8	横山 正巳	教授	<病院前救急救護コミュニケーションのあり方 ④> 病院前救急救護現場における高齢者、乳児、精神疾患(認知症、アルコール中毒)、暴力的行為、ホームレス等の傷病者及び関係者など取り扱い場面ごとにおけるコミュニケーションのあり方を説明できる。			
	9	横山 正巳	教授	<119番通報時等のブラインドコミュニケーションのあり方 ①> 119番通報時の口頭指導や携帯電話での医療情報収集など、緊迫した傷病者等とのブラインドコミュニケーションの具体的なコミュニケーションの特長について説明できる。			
	10	横山 正巳	教授	<119番通報時等のブラインドコミュニケーションのあり方 ②> 119番通報時の口頭指導や携帯電話での医療情報収集など、緊迫した傷病者等とのブラインドコミュニケーションの具体的なコミュニケーションの特長について説明できる。			
	11	横山 正巳	教授	<広聴対応のコミュニケーション ①> 病院前救急救護活動のクレームに関わるコミュニケーションの特長について説明できる。			
	12	横山 正巳	教授	<広聴対応のコミュニケーション ②> 病院前救急救護活動のクレームに関わるコミュニケーションの特長について説明できる。			
	13	横山 正巳	教授	<病院前救急救護コミュニケーションの評価と実証研究を探る> 病院前救急救護コミュニケーションの評価と実証方法について、その要点を説明できる。			
	14	横山 正巳	教授	<行政上の折衝に関わるコミュニケーション> 行政関係者及び医療従事者との折衝におけるコミュニケーションの特長について、その要点を説明できる。			
15	横山 正巳	教授	<メディアとのコミュニケーション> 病院前救急救護情報の普及におけるマスメディアの役割及び重要性と手法について、説明できる。				

事前事後学修の内容およびそれに必要な時間	【事前学修】	指定したテキストの次回授業部分を事前に読んでおくこと。 次回の授業内容を予習し、用語の意味等を理解しておくこと。
	【事後学修】	授業中の疑問点をまとめ、参考書等を利用し、次回授業までに解決しておくこと。
	【必要時間】	当該期間に30時間以上の予復習が必要。
教科書	資料を配布する。	
参考書	「救急活動コミュニケーションスキル 何を聞く?何を伝える?」坂本哲也 畑中哲生 松本 尚 Medical Science 「高齢者とのコミュニケーション」野村豊子著 中央法規出版 「精神科看護のコミュニケーション技術」平澤 久一著 日総研	
成績評価の方法および基準	講義ごとのレポート100%	
その他履修上の注意事項	試験やレポート等に対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。 カリキュラムマップのDPIが、この科目と本専攻の学位授与方針との関連を示している。	